

新型コロナウイルス感染症の影響によるオンラインでの在宅看護実習における教育活動報告

著者	小野 若菜子, 竹森 志穂, 西村 恵理奈, 森田 誠子, 山田 雅子
雑誌名	聖路加国際大学紀要
巻	8
ページ	18-23
発行年	2022-03-08
URL	http://doi.org/10.34414/00016564



短 報

新型コロナウイルス感染症の影響によるオンラインでの 在宅看護実習における教育活動報告

小野若菜子 竹森 志穂 西村恵理奈 森田 誠子 山田 雅子

Educational Activities Report About Online Home Care Nursing Practicum due to Mitigating Coronavirus Disease Risk

Wakanako ONO Shiho TAKEMORI Erina NISHIMURA
Satoko MORITA Masako YAMADA

[Abstract]

Purpose: The purpose of this report is to understand the educational activities of our university's online home care nursing practicum conducted due to the epidemic of SarsCOV2 and its impact on students. **Methods :** In the first half of 2020, we taught three subjects: (1) 'community and home care nursing practicum', (2) 'community-based comprehensive care practicum', and (3) 'comprehensive home care nursing practicum'. A survey was then conducted on the degree of students' practicum achievement goals. **Results :** Many respondents answered that they were able to achieve the practical training goal, but a few students were unable to achieve 'knowing the life of the patients'. There were positive answers such as the appropriate amount of assignments and feedback from teachers on the assignments as the method of managing the online training. **Discussion :** In the online practicum, there was an advantage in that the nursing process up to the nursing care planning step could be carried out through simulated cases. However, students could not experience a sense of the patients and their families' lifestyles and values, which is a practice unique to home-visit nursing. In the future, educational activities will be required to consider the lack of students' nursing practice experience.

[Key words] new coronavirus disease, SarsCOV2, home care nursing practicum, online practicum, nursing education

[要 旨]

[目的] 本報告は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い実施した本学のオンラインでの在宅看護実習の教育活動と学生への影響を振り返り、考察することを目的とした。[方法] 2020年前期、地域・在宅看護学実習、総合実習（地域包括）、総合実習（在宅看護）をオンラインで実施し、実習到達目標達成度の調査を実施した。[結果] 実習到達目標達成度については、達成できたという回答が多かったが、療養者の生活を知るといった項目については、達成できなかったという回答が見られた。オンライン実習の運営方法として、適切な課題の分量、教員から課題に対するフィードバック等、肯定的な回答があった。[考察] オンライン実習では、模擬事例の中で看護計画立案までの看護過程を実施できるメリットがあった。しかし、療養者・家族のそれぞれの暮らしや価値観を感じ、訪問看護ならではの看護実践を体験することができなかった。今後、学生の実習経験の不足に配慮した教育活動が求められる。

[キーワードズ] 新型コロナウイルス感染症, COVID-19, 在宅看護実習, オンライン実習, 看護教育

I. 緒言

世界的に新型コロナウイルス感染症が流行し、日本では感染拡大に伴い、2020年2月末、新型コロナウイルス感染症対策本部から全国の小中学校と高校に休校要請が出された。2020年3月13日に成立した新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく措置として、東京都においても、2020年4月7日から緊急事態宣言が発令された。大学においても、卒業式や入学式の縮小・中止、2020年4月から対面授業を中止、オンライン授業を開始する等、感染症の予防策を最優先する必要に迫られた。

また、看護師等養成所では、授業だけでなく、臨地実習をどのように実施するかという課題に直面した。厚生労働省医政局看護課事務連絡「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について」(2020年6月22日付)において、「実習施設において学生の受け入れが可能となった場合は、実習施設と調整し必要な感染予防を講じた上で、可能な限り臨地実習を実施すること。その際、感染を予防し、実習施設の負担を抑える観点から、実習内容を精査し、学生が臨地に滞在する時間が必要最小限となるよう計画すること。」との通達があった¹⁾。

本来、看護教育においては、講義形式の授業に加え、アクティブラーニングを取り入れたグループワーク、ロールプレイ、シミュレーション、看護技術などの学内演習がある。さらに、病院や介護施設、訪問看護事業所等における実習がある。2020年度前期、本学看護学部では、臨地実習や学内の授業・演習は中止となり、オンラインにより実施された。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業の実施にあたり、教員は、十分な準備期間もなく、オンライン授業のシステムを模索しながら授業を行うという異例の展開になった。また、学生にとっても、新型コロナウイルス感染症禍の不安な中で、インターネットを活用した自宅学習となり、オンライン授業によるメリット・デメリットがあったと考えられる。

人々の生命を脅かす感染症の蔓延という危機的な社会情勢の中にあり、看護教員は、学生の健康や学習をどのようにサポートしていくことができるのか、今回の経験を振り返り、看護教育の方法についても再検討していく必要がある。そこで、本報告は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い実施した本学のオンラインでの在宅看護実習の教育活動と学生への影響を振り返り、考察することを目的とした。

II. 方法

本報告では、2020年度前期に開講したオンライン実習、

すなわち、3年次編入4年生の地域・在宅看護学実習、4年制入学4年生の総合実習について報告する。尚、2020年度前期、オンライン授業は、学生へのインターネット通信状況への配慮から、オンデマンド型の形式を基本とし、リアルタイム型は短時間のみとすることが大学の方針であった。実際の授業は、インターネットを通じた授業支援システム(Learning Management System: 以下、LMSとする)を用いて、講義のアナウンス、資料の提供、課題の提出、感想・コメントの書き込み、学生同士の課題の相互閲覧機能等を活用して実施した。

実習の進め方においては、実習日ごとに、学習目標、学習方法、動画や資料を提示し、LMSからワークシートの提出を求めた。

1. 地域・在宅看護学実習

2020年度前期、地域・在宅看護学実習(2単位)は、訪問看護事業所6日間の実習と学内4日間の演習によって実施する計画であった。しかし、大学として、基本的に、病院・施設等における実習は中止になり、オンラインで実施した。履修者は、30人で、15人ずつ、2グループに分かれ、1クール10日間の実習を実施した。

1) 到達目標

現地の実習でなければ、到達できない目標は、オンラインで修得が可能な目標に修正した。また、「同行訪問を通して看護過程の実際を学ぶ」「訪問看護ステーションの事業実績や活動内容の概要を理解する」は削除した。

2) 学習内容

毎日、提示した課題、動画視聴等を行い^{2) - 8)}、ワークシートをその日の13時まで提出後、LMS上で、学生が相互に閲覧できるようにし、お互いがコメントを書き込んだ(表1)。その後、学生が、「本日の学びと感想」を個人で提出し、教員は、コメントを返した。

ワークシートは、臨地実習における学生の目線に近づけるように、動画から具体的に何を見たか、どのようにアセスメントするか、どのように声をかけ、看護師に報告をするのかといった内容から構成されていた。また、動画に登場する脳梗塞患者が外出することをイメージしながら、自分の家の周囲を歩いてみたうえで外出支援の計画を立案するといった課題も提示した。

2. 総合実習(地域包括)、総合実習(在宅看護)

総合実習(地域包括)、総合実習(在宅看護)(3単位)は、3週間に渡り、基本的な看護展開の修得を目指す。例年、総合実習(地域包括)では、看護小規模多機能型居宅介護事業所、総合実習(在宅看護)では、訪問看護事業所における実習が行われる。2020年度の前期は、学習効果も踏まえ、2科目合同で実施した。実習期間は、2020年6月8～26日であった。履修者は、総合実習(地

表1. 2020年度地域・在宅看護学実習における主な学習方法

学習内容	方法
オリエンテーション, 訪問看護の基本	オンライン(リアルタイム)動画視聴 ^{2) 3)} , 相互閲覧
・脳梗塞後遺症の患者の生活と看護	動画視聴 ⁴⁾ , 相互閲覧
・在宅経管栄養を行う患者への看護	動画視聴 ⁵⁾ , 相互閲覧
・障がいをもつ療養者の外出への看護	動画視聴 ⁶⁾ , 相互閲覧
・退院調整・退院支援	動画視聴 ⁷⁾ , 相互閲覧
・ターミナルケア・グリーフケア	資料, 相互閲覧
・感染予防策, 訪問看護に関する制度	動画視聴 ⁸⁾ 資料, 相互閲覧
中間カンファレンス	オンライン(リアルタイム)
個人面談	オンライン(リアルタイム)

域包括) 4人, 総合実習(在宅看護) 2人であった。

1) 到達目標

現地の実習でなければ, 到達目標の達成が難しい項目は, オンライン実習で可能な目標に修正した。例えば, 看護過程については, 「療養者・家族の特性・状況や価値観を尊重した支援を考え, 情報の分析, アセスメントを行い, 看護計画を立案することができる」に修正した。

2) 学習内容

(1)実習1・3週目－在宅看護の動画視聴・ワークシート

毎日, 提示した課題, 動画視聴等を行い^{2) - 8)}, ワークシートをその日の午後までに提出し, その後, LMS上で, 学生が相互に閲覧, お互いがコメントを書き込みフィードバックをした(表2)。その後, 学生が, 「本日の学びと感想」を個別に提出し, 教員は, コメントを返した。

(2)実習2週目－訪問看護計画立案: 事例を通して看護実践を考えよう, 認知症高齢者の自宅での生活を支える看護

事例は, 学生が主体的に学ぶことができるよう主人公を看護学生とし, 学生が実習で訪問看護に同行するという状況を設定した。初日は看護記録から情報収集を行い,

2日目には1回目の同行訪問(バイタルサインの測定, 服薬確認, 会話), 3日目には自身の気づきや疑問を学生が訪問看護師に相談する(看護師からの情報提供)といった内容で進めた。そして, 4日目には対象者に対する看護計画を立案し, 学生同士で意見交換するようにした。最終日の5日目は, 2回目の同行訪問とし, 緊急性を要する事態が起こっている場面を提示してその際の対応や今後の支援の在り方を考える構成とした。オンライン(リアルタイム)での意見交換を実施した。

3. 学生の実習到達目標達成度と受講の感想

1) 評価方法

(1)実習到達目標達成度

科目履修者に「調査協力のお願ひ」の文書と無記名ア

表2. 2020年度総合実習(地域包括), 総合実習(在宅看護)における主な学習方法

学習内容	方法
オリエンテーション, 訪問看護の基本	オンライン(リアルタイム)動画視聴 ^{2) 3)} , 相互閲覧
・脳梗塞後遺症の患者の生活と看護	動画視聴 ⁴⁾ , 相互閲覧
・在宅経管栄養を行う患者への看護	動画視聴 ⁵⁾ , 相互閲覧
・障がいをもつ療養者の外出への看護	動画視聴 ⁶⁾ , 相互閲覧
・訪問看護計画立案: 事例を通して看護実践を考えよう, 認知症高齢者の自宅での生活を支える看護	初日: 情報の整理・分析 相互閲覧 オンライン(リアルタイム)
2日目: 療養者の生活上の課題	相互閲覧 オンライン(リアルタイム)
3日目: 看護ケア関連図の作成	相互閲覧
4日目: 訪問看護計画の立案	相互閲覧
5日目: これからの生活を続けていくための支援	相互閲覧 オンライン(リアルタイム)
・退院調整・退院支援	動画視聴 ⁷⁾ , 相互閲覧
・ターミナルケア・グリーフケア	資料, 相互閲覧
・感染予防策, 訪問看護に関する制度	動画視聴 ⁸⁾ 資料, 相互閲覧
最終カンファレンス・個人面談	オンライン(リアルタイム)

ンケート URL をメールで送信し, オンラインアンケートに協力が得られる場に, 実習到達目標達成度の回答を依頼した。

(2)任意アンケートによる記述内容

科目終了後に, 地域・在宅看護学実習においては, LMS上の「任意アンケート」(LMSの進め方等について学生が意見や感想を記載するシート), 総合実習においては, 実習最終日の「学びと感想」(一日で学んだこと・感じたことを記載するシート)の記載を実施した。そこで, 科目履修者に「調査協力のお願ひ」の文書をメールで送信し, これらのLMS上の記載を, 本報告のデータとして用いてよいか尋ね, 承諾が得られる場合には, アンケートURLから, 「活用することに同意する」の選択してもらった。同意した人の任意アンケートを匿名化しデータとして活用した。

2) 倫理的配慮

「調査協力のお願ひ」の文書をメールで送信し, コロナウイルス感染症の影響での遠隔授業について, 授業終了時のアンケートの活用および科目の到達目標達成度の無記名アンケートへの協力を依頼した。本報告のテーマ・目的, アンケートから得られた内容は, 報告書作成以外の目的で使用しないこと, 自由意志による参加, 個人の評価を行うものではないこと, プライバシー・個人情報の保護, 学会誌への投稿, データ管理について説明し, 科目単位認定終了後に協力を依頼した。

Ⅲ. 結 果

1. 地域・在宅看護学実習

1) 実習到達目標達成度

到達目標達成度について、18人（回収率60%）から回答を得た（表3）。

「非常に」～「わりに達成できた」が合わせて5割を超えていた項目は、多い順に「療養者・家族を尊重し、課題解決能力を高める支援者としての基本的態度を学ぶ」14人（77.8%）、「療養者・家族の日常生活上のニーズ、大切にしていることは何かを学ぶ」12人（66.7%）と続いた。「全く」～「あまり達成できなかった」を合わせて5割を超えた項目は、「療養者の生活している地域の地理的、文化的特徴を知る」10人（55.5%）であった。

2) 任意アンケートにける記述内容

地域・在宅看護学実習（オンライン）に対する感想について、報告書への同意が得られた5人の自由記載の内容の分析を行った（表4）。

2. 総合実習

1) 実習到達目標達成度

実習到達目標達成度について、6人（回収率100%）から回答を得た（表5）。「人々の様々な暮らし方や価値観を理解し、暮らしを支える看護を考え述べることができる」については、「非常に」～「わりに達成できた」が5人（83.4%）であった。

2) 最終日の「学びと感想」の記述内容

報告書作成への同意が得られた4人の自由記載の内容

の分析を行った。実習を通して「療養者・家族の視点を考える」「管理的な支援と生活を重視した関わりのバランスを考える」重要性等が記載されていた。

Ⅳ. 考 察

1. オンラインによる在宅看護学実習からの学生の学び

1) 提示された課題について考え、文章化し説明するプロセスを経て、自分の思考を整理できる

オンライン学習になり、学生は、LMS からワークシートや学びと感想などを入力するなどの考えを書く機会が増加した。また、自分のわからないことや知らないことに着目することで、教科書や資料と向き合い、インターネットの情報を取捨選択する力も求められたであろう。

さらに、学生から「教員からの課題に対するフィードバック」が学びにつながったというコメントがあった。今回のオンライン実習では、学生が毎日の体験や学びを文章にして報告し、教員が学生一人ひとりの理解を把握しコメントすることで、教員と学生間の相互理解が深まったと考えられる。このことにより、インターネット上で学生-教員の相互作用が働いたと考えられた。

2) 情報収集、アセスメント、計画までの看護過程を模擬事例の中で実施できる

本報告の総合実習において、実習到達目標「療養者・家族の特性・状況や価値観を尊重した支援を考え、情報の分析、アセスメントを行い、看護計画を立案することができる」について、全員が「少し」～「わりに達成できた」と回答し、看護計画の立案への自己評価も比較的

表3. 地域・在宅看護学実習の到達目標達成度

到達目標	n=18									
	1		2		3		4		5	
	全 く 達 成 で き な か っ た	人 %	あ ま り 達 成 で き な か っ た	人 %	少 し 達 成 で き た	人 %	わ り に 達 成 で き た	人 %	非 常 に 達 成 で き た	人 %
1. 訪問看護を受ける療養者・家族が抱えているニーズとその支援を理解する。										
1) 在宅療養をしている人々の暮らしを知る。	1	5.6	1	5.6	8	44.4	8	44.4	0	0
2) 療養者・家族の日常生活上のニーズ、大切にしていることは何かを学ぶ。	0	0	2	11.1	4	22.2	9	50.0	3	16.7
3) 療養者・家族を尊重し、課題解決能力を高める支援者としての基本的態度を学ぶ。	0	0	0	0	4	22.2	10	55.6	4	22.2
4) 在宅療養におけるサービス活用について理解する。	0	0	1	5.6	8	44.4	7	38.9	2	11.1
2. 訪問看護の提供のしくみについて概要を理解する。										
1) 訪問看護の提供のしくみや制度について理解する。	0	0	0	0	7	38.9	9	50.0	2	11.1
2) 訪問看護ステーション及び訪問看護の質の維持・向上について考える。	0	0	5	27.8	5	27.8	6	33.3	2	11.1
3. 地域における訪問看護の役割を理解する。										
1) 療養者の生活している地域の地理的、文化的特徴を知る。	2	11.1	8	44.4	2	11.1	5	27.8	1	5.6
2) 訪問看護を提供する上で、関係機関・職種との連携について知る。	0	0	4	22.2	8	44.4	4	22.2	2	11.1

表4. 地域・在宅看護学実習（オンライン）に対する履修者の感想

1. 学習方法
1) 事前のわかりやすい課題の提示
・実習の進め方や、学生への連絡など、シンプルでわかりやすかった。
・事前に課題が提示されたため、自分のペースで進めることができた。
・「明日のすること・事前課題」が示されていた。
2) 適切な課題の分量
・資料に忙殺されることもなく、事例やチームに集中できた。
・課題の分量が適量であった。
3) 教員から課題に対するフィードバック
・(LMS 上での) 各課題にフィードバックをもらい、安心して課題を進めることができた。
・(LMS 上での) 個別に毎日、フィードバックがあり、反省や更なる学びを得ることができた。
4) 提出物の学生相互閲覧
・(LMS 上での) やりとりから学生同士の気づきによって学ぶこともたくさんあった。
2. インターネット環境等への配慮
・実習時間になる前に、事前に動画を視聴できるなど、通信環境への不安もなかった。
・動画や資料の配信量が適切であったため、パソコンのデータ量に対して負担が少なかった。
3. 訪問看護の学びと経験
・臨地実習ではなくても必要な視点を学ぶことができた。
・楽しく実習に取り組むことができ、とてもいい経験ができた。
・看護師同士の会話の様子や、利用者宅に訪問への訪問時、玄関に入る前から家に上がった時、ケアの様子や注意点、帰るところまで動画などの教材を通して学ぶことができた。
・様々な視点を補うことで、「実習だとさっとうだったかもしれない」という想像をより深めることができた。

*5名の自由記載の主な内容

良好であった。

オンライン学習のメリットとしては、模擬事例の中で、情報収集、アセスメント、計画までの看護過程にじっくり取り組むことができるということが挙げられるであろう。今回、総合実習においては、実習中の学生が看護師に同行し訪問するという事例を提示し、個人ワーク、グループワークも行いながら、また、教員は、LMS やオン

ラインカンファレンスで、学生の気付きを促すように問いかけながら進めていった。このことで、学生は、対象者の希望や課題をアセスメントし、どのように、看護を提供するかという考えを深められている様子であった。

先行文献において、在宅看護実習では、【近隣のインフォーマルな人々の存在】【長期的継続的であると捉える必要のある療養生活】という学生の学びがあったと報告されていた⁹⁾。これらは在宅看護実習に特有な学びともいえる。本報告の総合実習の事例検討にも、対象者の歴史や周囲のインフォーマル支援の情報も含まれており、これらの視点を組み込むことができた。

3) ディスカッションの経験を積むことができる

今回、LMS 上で、相互閲覧や掲示板への書き込みを通して、学生は、自分と異なるや他者の視点や価値観を学ぶ機会になったのではないかと考えられる。

オンラインカンファレンスは、お互いの顔を見ながら話をすることができ、また、個人学習の中、リフレッシュする機会にもなる。総合実習履修生の「学生や教員のコメントから学ぶことができた」という反応からも、インターネット上のカンファレンスは有効であったのではないかと考えられる。また、学生がディスカッションの経験を積むメリットが考えられる。

2. オンラインでの在宅看護実習の運営方法と課題

1) オンライン実習の運営方法

地域・在宅看護学実習に対する感想として、(1)事前のわかりやすい課題の提示、(2)適切な課題の分量、(3)教員から課題に対するフィードバック、(4)提出物の学生相互閲覧といった学習方法については、肯定的なコメントが見られていた。

しかし一方で、オンライン実習は、学生の学習の好みによっても、効果に影響を及ぼす可能性がある。動画やインターネットからの学習を好む人もいれば、本や資料を読むことを好む人もいる。また、課題を計画的に進めるためには自己管理が必要になる。さらに、個人学習が続くことへの動機づけの低下、パソコン画面を見ること

表5. 総合実習の到達目標達成度

	n=6									
	1		2		3		4		5	
到達目標	全く達成できなかった	あまり達成できなかった	少し達成できた	わりに達成できた	非常に達成できた					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1. 人々の様々な暮らし方や価値観を理解し、暮らしを支える看護を考え述べるができる。	0	0	1	16.7	0	0	4	66.7	1	16.7
2. 療養者・家族の特性・状況や価値観を尊重した支援を考え、情報の分析、アセスメントを行い、看護計画を立案することができる。	0	0	0	0	3	50.0	3	50.0	0	0
3. 在宅看護やケアマネジメント、在宅ケアシステムの特徴を理解し、自分の看護観もふまえて説明することができる。	0	0	0	0	2	33.3	2	33.3	2	33.3

による疲労などが生じる可能性があり、対面授業とは異なる配慮が必要になる。掲示板での意見交換も、学生によって、時にストレスになる可能性もある。

これらのことから、オンライン実習への配慮として、(1)早めに学習内容やスケジュールを提示すること、(2)動画や資料などいくつかの教材をうまく組み合わせること、(3)パソコンの画面視聴が長時間にならないよう休憩を取り入れること、(4)インターネット上の書き込み、閲覧、カンファレンスでのマナーやルールを設けることなどが必要ではないかと考えられる。また、学習状況や心身の健康状態などの確認をし、通常と異なる授業形態による困りごとやストレスへのサポートが求められるであろう。

2) 訪問看護事業所での実習ができなかった影響

地域・在宅看護学実習の到達目標達成度については、「訪問看護ステーション及び訪問看護の質の維持・向上について考える」について、「あまり達成できなかった」27.8%、「療養者の生活している地域の地理的、文化的特徴を知る」について、「あまり達成できなかった」「全く達成できなかった」が計55.5%と他の項目と比較して、やや高い傾向があった。これらの理由としては、教授内容や目標の掲げ方が不十分であったと考えられる。しかし一方で、訪問看護事業所での実習ができていれば、看護師からの説明や地域の特徴を見る機会があり、もう少し理解が深まった項目である可能性が考えられる。

訪問看護事業所では、学生は、様々なことを感じ、体験をすることができる。学生の在宅看護論実習で心に残る体験として、さまざまな療養環境の暮らしに触れた体験、在宅看護に魅力を感じた体験、訪問看護の場面から感じ考えた体験などが報告されていた¹⁰⁾。特に、訪問看護では、療養者・家族の暮らしの中に入ること、生活の違い、すなわち多様性や個性を学ぶ機会を得る。オンライン学習では、これらの体験が少なくなっている。

その他、訪問看護に同行することで、自然な会話の中で行われるコミュニケーションやアセスメントの視点を学び、ケアの方法や工夫も理解することができる。在宅看護実習では、「援助体験からの達成感」「看護師のやりがい」といった学生の実感を伴った学びもある¹¹⁾。さらに、訪問看護師の語りから学びを得ることもある¹¹⁾。これらのことから、看護師との対話およびカンファレンスの機会を設けることも、対象理解の視野を広げ、看護の意義を考えるために重要であると考えられた。

V. 結 論

新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業の実施にあたり、学生にとっても、新型コロナウイルス感染症流行の不安な中で、インターネットを活用した

自宅学習となった。オンライン実習においては、情報収集、アセスメント、計画までの看護過程を模擬事例の中で実施する、また、ディスカッションの経験を積むなどのメリットが考えられた。しかし、療養者・家族のそれぞれの暮らしや価値観を感じ、訪問看護ならではの看護実践を体験することができなかった。今後、これらの経験の不足に配慮した教育活動が求められるであろう。また、オンライン実習のメリットを活用しながら、今後の教授方法を検討していく必要がある。

引用文献

- 1) 厚生労働省医政局看護課. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について(事務連絡2020年6月22日) [Internet]. <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf> [参照 2020-11-16]
- 2) 静岡県訪問看護ステーション協議会製作. 訪問看護ってどんな感じ? [非公開動画]; 2014.
- 3) 静岡県訪問看護ステーション協議会製作. 待っている人がいる訪問看護 [非公開動画]; 2020.
- 4) 原恵美指導. 人間らしい生活を願って: 脳梗塞後遺症のリハビリ(在宅看護ケーススタディー) [DVD]. 東京: ビデオ・パック・ニッポン; 2009.
- 5) 仁藤紀子ほか監修. 移行期: 看護技術の応用・家族への教育的かかわり(在宅事例から読み解くナーシング・ケア; 2) [DVD]. 東京: 丸善出版; 2018.
- 6) 仁藤紀子ほか監修. 安定期: 看護介入のための日常生活アセスメント(在宅事例から読み解くナーシング・ケア; 3) [DVD]. 東京: 丸善出版; 2018.
- 7) 山田雅子総監修. 療養の場の移行に伴う看護: 病院から退院するまでの実際をみてみよう(映像で感じ、考える、これからの在宅看護論; 第4巻) [DVD]. 東京: ビデオ・パック・ニッポン; 2014.
- 8) 厚生労働省. 訪問介護職員のためのそうだったのか! 感染対策! ①~③ [Internet]. https://www.youtube.com/playlist?list=PLMG33RKISnWj_HIGPFEBEiyW-1oHZGHxCc [参照 2020-05-07]
- 9) 山村江美子, 田中悠美, 稲垣優子ほか. 在宅看護論実習における学び: 対象の理解と在宅看護実践の特性に焦点をあてて. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要. 2015; 23: 41-51.
- 10) 古屋敦子, 根立静子, 澤田明希子ほか. 在宅看護論実習における学生の心に残る体験. 日本看護学会論文集: 在宅看護. 2018; 48: 94-7.
- 11) 鈴木昭子, 前田和子. 在宅看護実習における学生の学び: 終了時レポートの分析から. 茨城キリスト教大学看護学部紀要. 2017; 8(1): 29-37.